

「かご作り」の驚くべき造形性

英語で「かご作り」を意味する「バスケットリー」。しかし現在では、繊維素材を駆使した造形という新たな意味も加わっている。この分野で活躍している福田笑子が、新作・近作 14 点から成る個展を開催している。

福田の作品は、モノフィラメント、ビニール、シリコンなどの芯材に、苧麻（ちよま）やサイザル麻を編んで作られている。なかでも螺旋（らせん）状に編む「コイリング」を多用しているのが特徴で、編み目の軌跡と線が作り出すリズム感、複雑にねじれた形状が大きな特徴だ。

そこでは素材と構造と形態が密接に結びついており、人為と自然法則が互いに影響を与えながら、ひとつのフォルムへと収れんしていく。時には作家にも予測できないねじれや回転が生じるのだが、それすらも糧にして前進することで、突き抜けた造形に達するのである。

筆者が思うに、ほかの立体表現よりも明確に「弾性」を感じられるのが、バスケットリーの魅力ではないか。作品の大きさは両手でかかえられる程度だが、そのポテンシャルは実寸よりもはるかに大きい。

本展では、ゆがんだ面に角を立てて部分的に回転させた《曲がり角》や、交差する線の相互作用で螺旋とねじれの構造を持つ《交差螺旋》のシリーズ作品が見られる。とはいえ、初見で技法を理解するのは難しい。作家が在廊していれば質問をして、理解を深めてほしい。単に見るだけでも美しい作品が、一層の深みをもって迫ってくるだろう。（GG＝河原町通四条下ル 14日まで 木休）（小吹隆文・美術ライター）

9 美術 第3種郵便物認可 2021年(令和3年)11月6日

美術

生命の躍動感とはかなさ

白砂壺や象嵌志野、音泥彩といった今井作品の変遷をたどる展示（広島県東広島市西条栄町・東広島市立美術館）

上がった眼球と開いた口が、どこか人間さくさくユーモアを感じさせる。シマワリをモチーフにした新作は、花が下を向いた珍しい構図の大皿だ。全体におれた感じで、命のなかなさを感じさせる。新作を集めた昨年の京都での個展では見られなかった傾向だ。内容的な印象を与える表現は、これからのような展開を見せるのだろうか。（前野直介）

（東広島市立美術館）広島県東広島市西条栄町 28日まで 月曜休館（有料）

「かご作り」の驚くべき造形性

福田笑子展

英語で「かご作り」を意味する「バスケットリー」。しかし現在では、繊維素材を駆使した造形という新たな意味も加わっている。この分野で活躍している福田笑子が、新作・近作 14 点から成る個展を開催している。

福田の作品は、モノフィラメント、ビニール、シリコンなどの芯材に、苧麻（ちよま）やサイザル麻を編んで作られている。なかでも螺旋（らせん）状に編む「コイリング」を多用しているのが特徴で、編み目の軌跡と線が作り出すリズム感、複雑にねじれた形状が大きな特徴だ。

そこでは素材と構造と形態が密接に結びついており、人為と自然法則が互いに影響を与えながら、ひとつのフォルムへと収れんしていく。時には作家にも予測できないねじれや回転が生じるのだが、それすらも糧にして前進することで、突き抜けた造形に達するのである。

筆者が思うに、ほかの立体表現よりも明確に「弾性」を感じられるのが、バスケットリーの魅力ではないか。作品の大きさは両手でかかえられる程度だが、そのポテンシャルは実寸よりもはるかに大きい。

本展では、ゆがんだ面に角を立てて部分的に回転させた《曲がり角》や、交差する線の相互作用で螺旋とねじれの構造を持つ《交差螺旋》のシリーズ作品が見られる。とはいえ、初見で技法を理解するのは難しい。作家が在廊していれば質問をして、理解を深めてほしい。単に見るだけでも美しい作品が、一層の深みをもって迫ってくるだろう。（GG＝河原町通四条下ル 14日まで 木休）（小吹隆文・美術ライター）

デザインの時代開いた熱情

1960～70年代の商業デザイン界で活躍し、映画「ドラキュラ」でアカデミー賞衣装賞を受賞した石岡瑛子（1938～2012年）の京都初となる回顧展「デザインはサバイブできるか」が開かれている。

会場の扉を開くと、伏見稲荷大社の千本鳥居を思わせる赤いアーチが続く。壁面には生前の石岡の言葉。「着地は熱情であらねばいけない」「デザイナーもアスリートと同じで、徹底的に自分を鍛えないと、サバイブなんてできませんよ」。数々の言葉がシャワーのように来場者を迎える。そしてサバイブ（生き残る）という言葉ほど石岡の生きざまにふさわしいものはない。

右京で石岡瑛子の

発表当時は社会現象ともなった「資生堂ビューティケイク」のポスターなど、石岡瑛子